



# 認定書

国住指第 3710 号  
平成 23 年 2 月 2 日

JFE 建材株式会社  
代表取締役社長 大出 直文 様

国土交通大臣 大畠 章宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：各 1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP060FL-0099
2. 認定をした構造方法等の名称  
コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ)
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：  
コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ)

2. 申請仕様の寸法：  
申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項目	申請仕様
支持方法	単純支持又は連続支持
支持部材間隔	3400mm以下(積載荷重3500N/m <sup>2</sup> 以下)
床厚(d)	155～175mm

3. 申請仕様の主構成材料：  
申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項目	申請仕様
デッキプレート	材料：デッキプレート(JIS G 3352) 材質：①～⑤の一 ①SDP1TG(普通鋼、めっき有り) ②SDP1T(普通鋼、圧延のまま) ③SDP2G(普通鋼、めっき有り) ④SDP2(普通鋼、圧延のまま) ⑤SDP3(耐候性鋼) 厚さ：1.0～1.6mm 山高さ：75(±1.5)mm 働き幅：600(+8、-2)mm
コンクリート	材料：レディーミクストコンクリート(JIS A 5308) 種類：普通コンクリート 呼び強度：18～36N/mm <sup>2</sup> 厚さ：デッキプレート山上から80～100mm
鉄筋(上端筋)	材料：①又は② ①溶接金網(JIS G 3551) 鉄線の形状：丸鉄線又は異形鉄線 断面寸法：線径6mm以上 網目寸法：150×150mm以下 ②異形鉄筋1)又は2) 1)鉄筋コンクリート用棒鋼(JIS G 3112) 材質：a)～e)の一 a)SD295A b)SD295B c)SD345 d)SD390 e)SD490 2)鉄筋コンクリート用再生棒鋼(JIS G 3117) 材質：SDR295又はSDR345 断面寸法：呼び名D10以上 間隔：200×200mm以下 かぶり厚さ：床上面から30mm

4. 申請仕様の副構成材料：

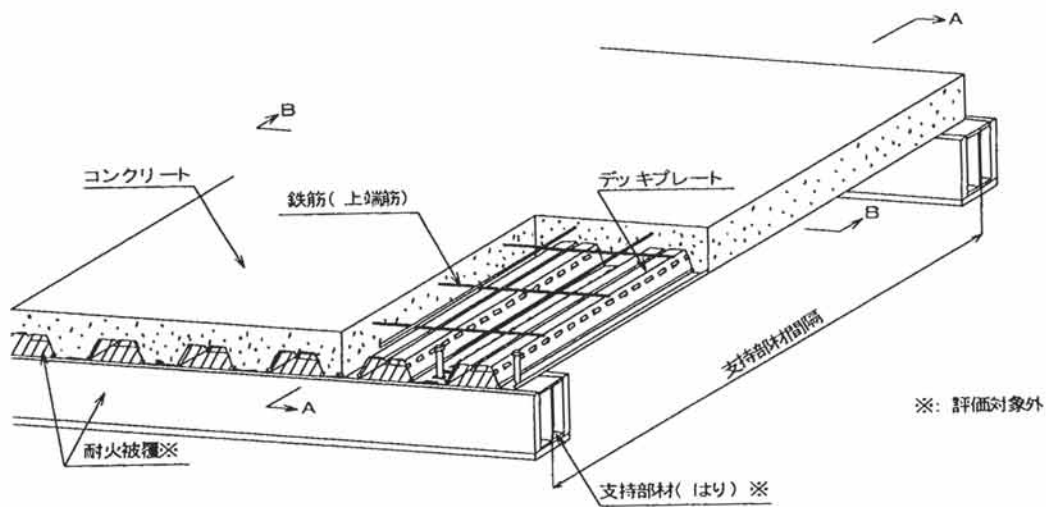
申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

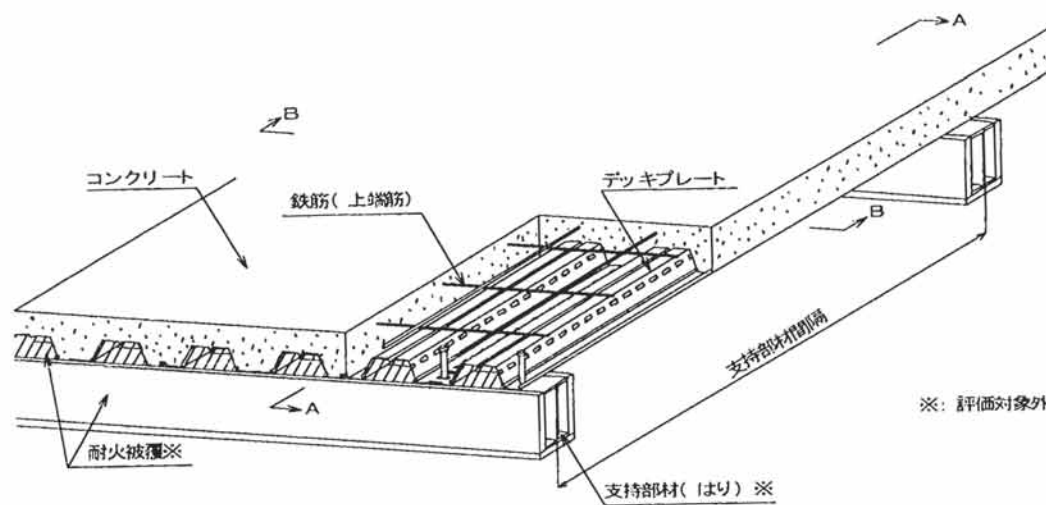
項目	申請仕様
留付材	床と支持部材の接合用 材料：頭付きスタッド(JIS B 1198) 寸法：φ16mm以上 間隔：300mm以下

5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図3に示す。

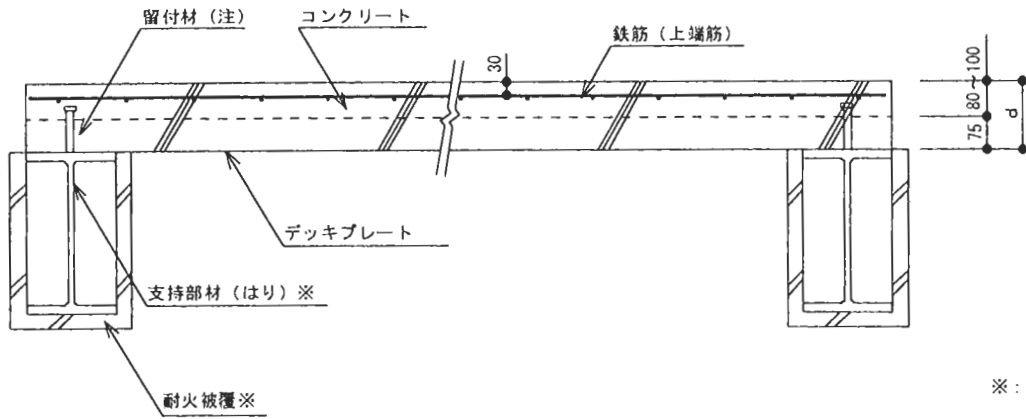


透視図(単純支持)



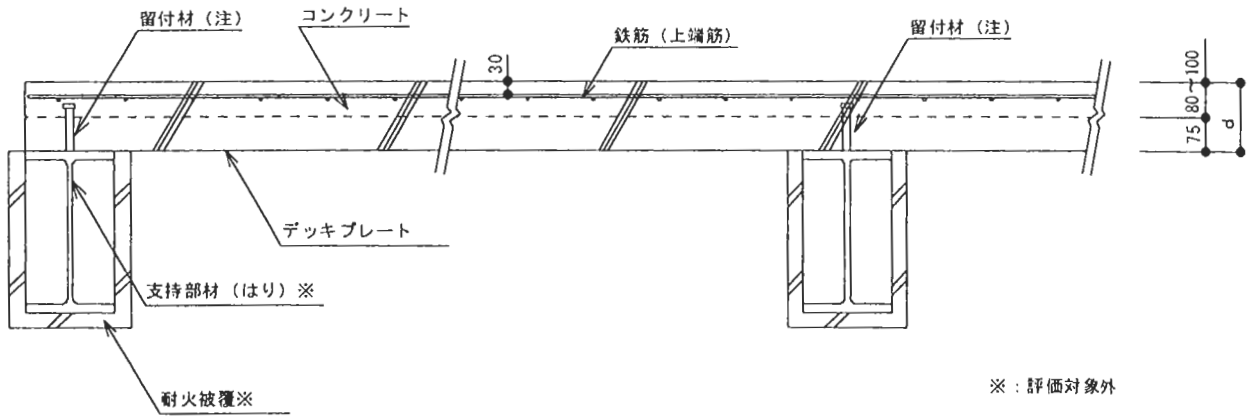
透視図(連続支持)

図1 構造説明図



※：評価対象外

A-A断面図 (単純支持)

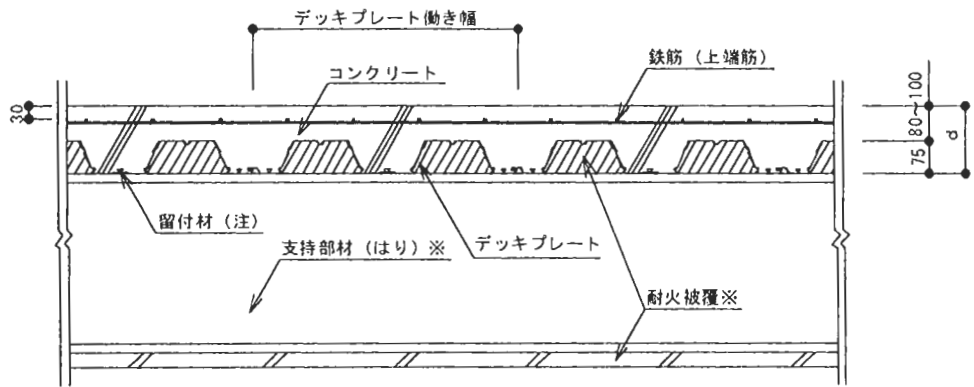


※：評価対象外

A-A断面図 (連続支持)

(注) デッキプレート長さ方向のはり等への留付材は評価対象外

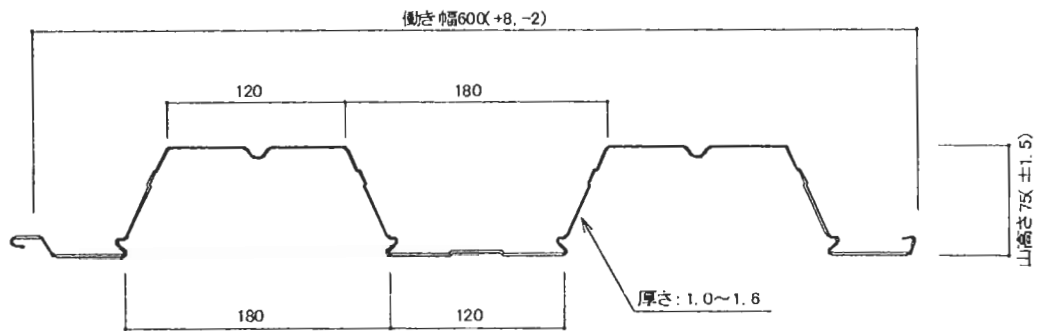
図2 構造説明図



※：評価対象外

B-B断面図

(注) デッキプレート長さ方向のはり等への留付材は評価対象外



デッキプレート断面詳細図

図3 構造説明図

## 6. 施工方法：

施工図を図4に示す。

施工は、以下の手順で行う。

### 1) デッキプレートの敷き込み

デッキプレートを墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを梁に溶接等で仮止めした後、順次適切な枚数ごとにデッキプレートを仮止めする。

### 2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブと鉄骨梁とは、頭付きスタッドで結合する。頭付きスタッドの施工前に、デッキプレートと梁をすみ肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合する。接合方法は、平成14年国土交通省告示第326号(改正平成19年国土交通省告示第606号)の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」(日本建築学会)もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」(日本建築学会)によるものとする。

### 3) デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は嵌合、溶接、ビス等により構造上、耐火上有効に行う。

### 4) 鉄筋(上端筋)の配置

コンクリートのひび割れ拡大防止のため、溶接金網または異形鉄筋を配置する。スラブ上面から30mmのかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。スペーサーは鉄線φ4mm以上またはセメントモルタルブロックを用い、間隔は1.0m以下とする。

### 5) コンクリート打設

鉄筋が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。コンクリートの施工については、「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準拠して行う。

### 6) 仕上げ

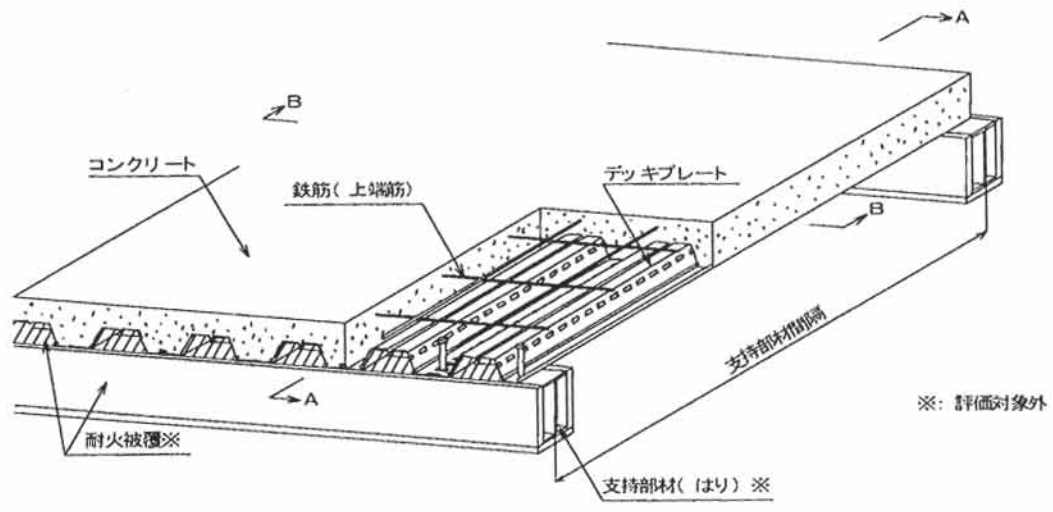
原則としてコンクリート表面は金ごて等の仕上げを施す。

### 7) 養生

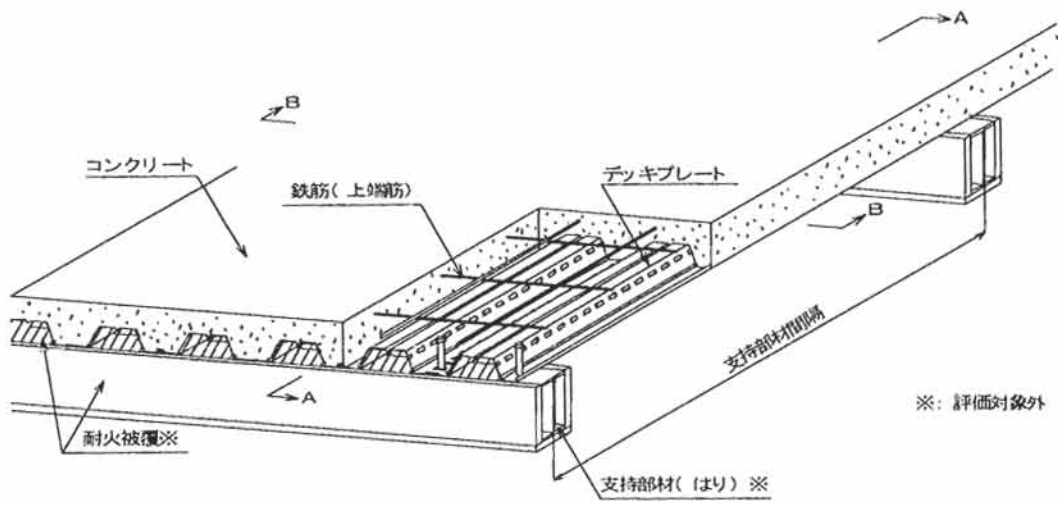
コンクリート打設後の養生は、「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」(日本建築学会)に準拠して行う。なお、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。

### 8) 梁の耐火被覆

梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて必要な耐火被覆を施す。



透視図(単純支持)



透視図(連続支持)

図4 施工図